

GLM-5.2 知財実務への の統合プレイブック

誇大広告の排除と、安全性・ROIに基づく
導入ロードマップ

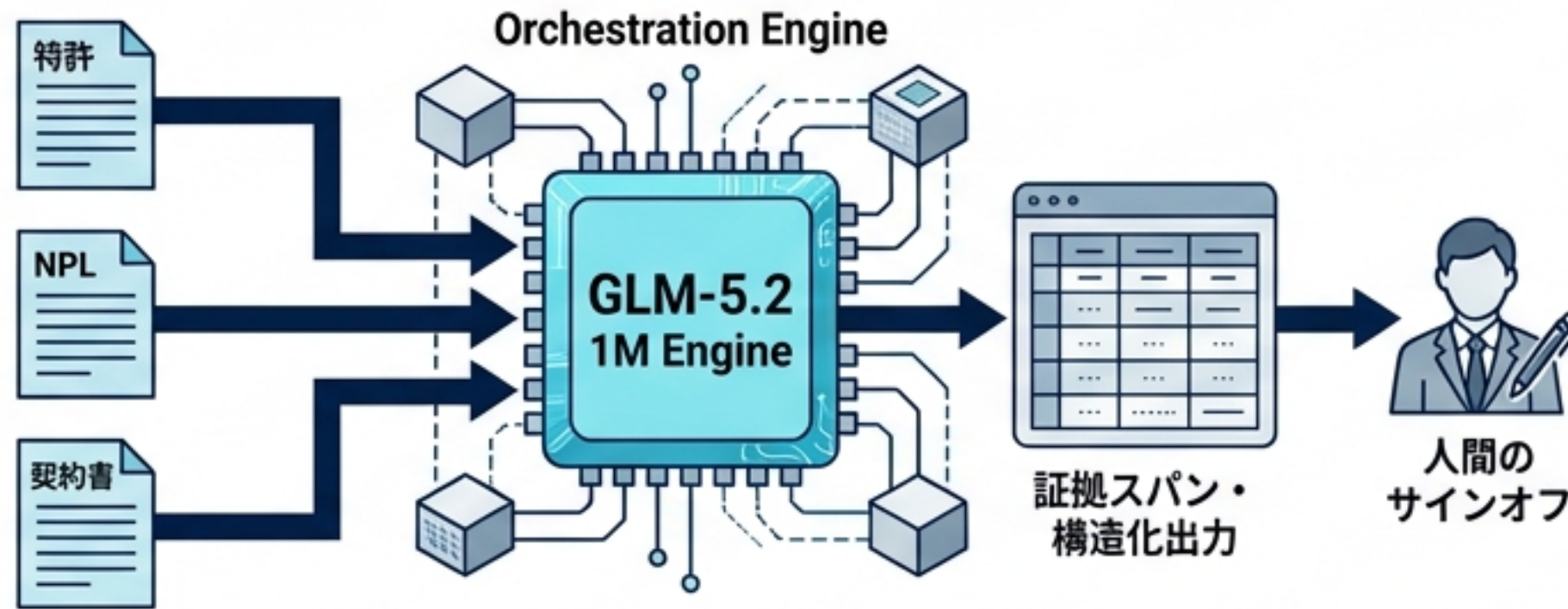
Meta-data Card

| | |
|-----------|--|
| 対象領域: | Intellectual Property & Corporate Law |
| 評価基準日: | 2026-06-14 |
| ドキュメント種別: | Strategic Diagnostic & Deployment Playbook |

結論：自律的な「法務判断」ではなく、 「証拠整理のオーケストレーション層」として機能させる



誤った認識：最終判断を委任する自律的AI



正しい認識：証拠整理の高速オーケストレーション基盤

役割の再定義

- 最終判断の委任ではなく、100万（1M）トークンの長文脈、証拠整理、構造化出力、ツール連携の基盤として活用。

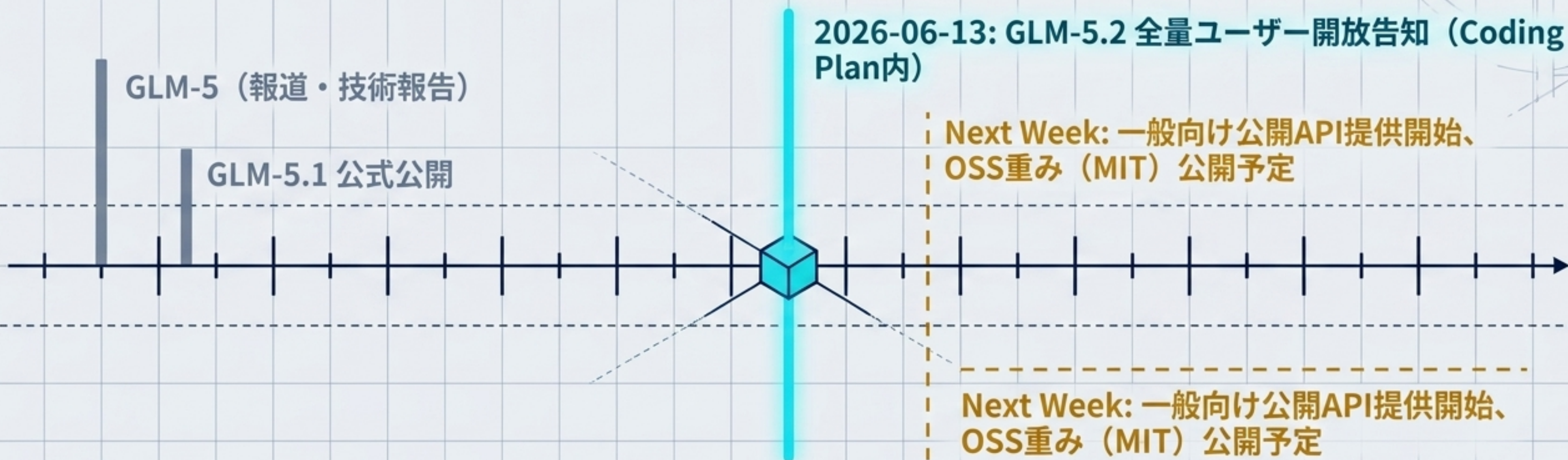
得意領域

- 先行技術検索、クレーム分解、FTO一次スクリーニング、IP DDにおける「大量資料からの証拠付き比較・抽出」。

人間の必須ゲート

- 法的判断、クレームの最終ドラフティング、侵害結論は、必ず人間の弁理士・弁護士のサインオフを要する。

公開タイムライン：製品先行・ドキュメント未追隨の現在地



戦略的洞察：GLM-5.2は「製品機能としては展開済みだが、研究・ガバナンス面の公式ドキュメントはまだ追いついていない」という特異なフェーズにある。

GLM-5.2 ファクトチェック・レーダー (2026-06-14時点)

✓ 確認済み (Verified in Product)

提供形態

Coding Planの公式対応ツール内 (Claude Code, Cursor等) で利用可能。

コンテキスト長

1Mトークン (glm-5.2[1m]指定、圧縮ウィンドウ100000000設定)。

機能

Agentic Coding向けの強化 (最長8時間の長期自律タスク、ベクトルDB最適化実績)。

⚠ 未確認・保留 (Pending Validation)

API/OSS

一般APIのエンドポイント、価格表、モデルカード、MITライセンスの全文。

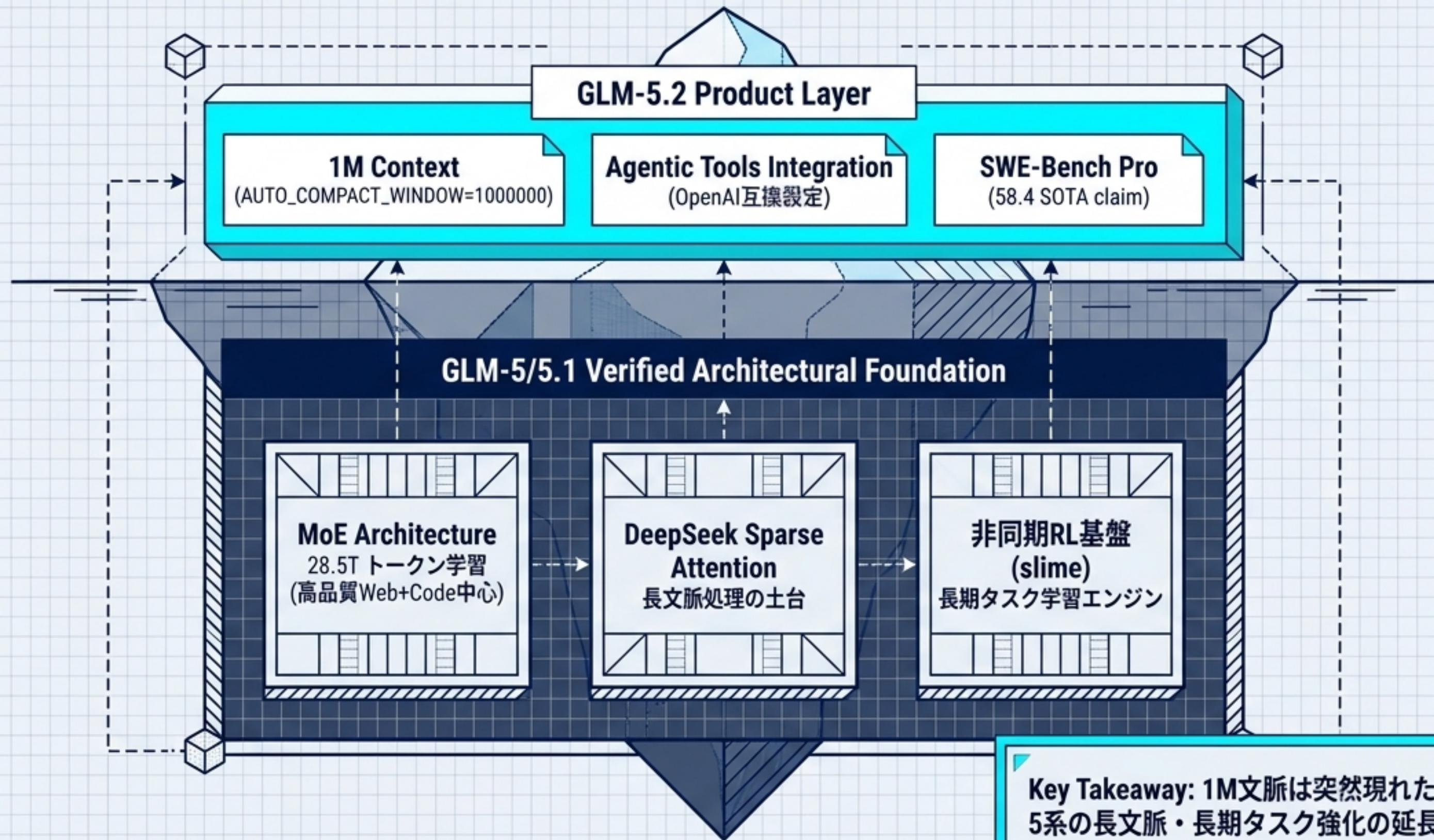
アーキテクチャ

1Mが完全ネイティブ注意 (Native Attention) か、圧縮/外挿の併用かは未解明。

安全性

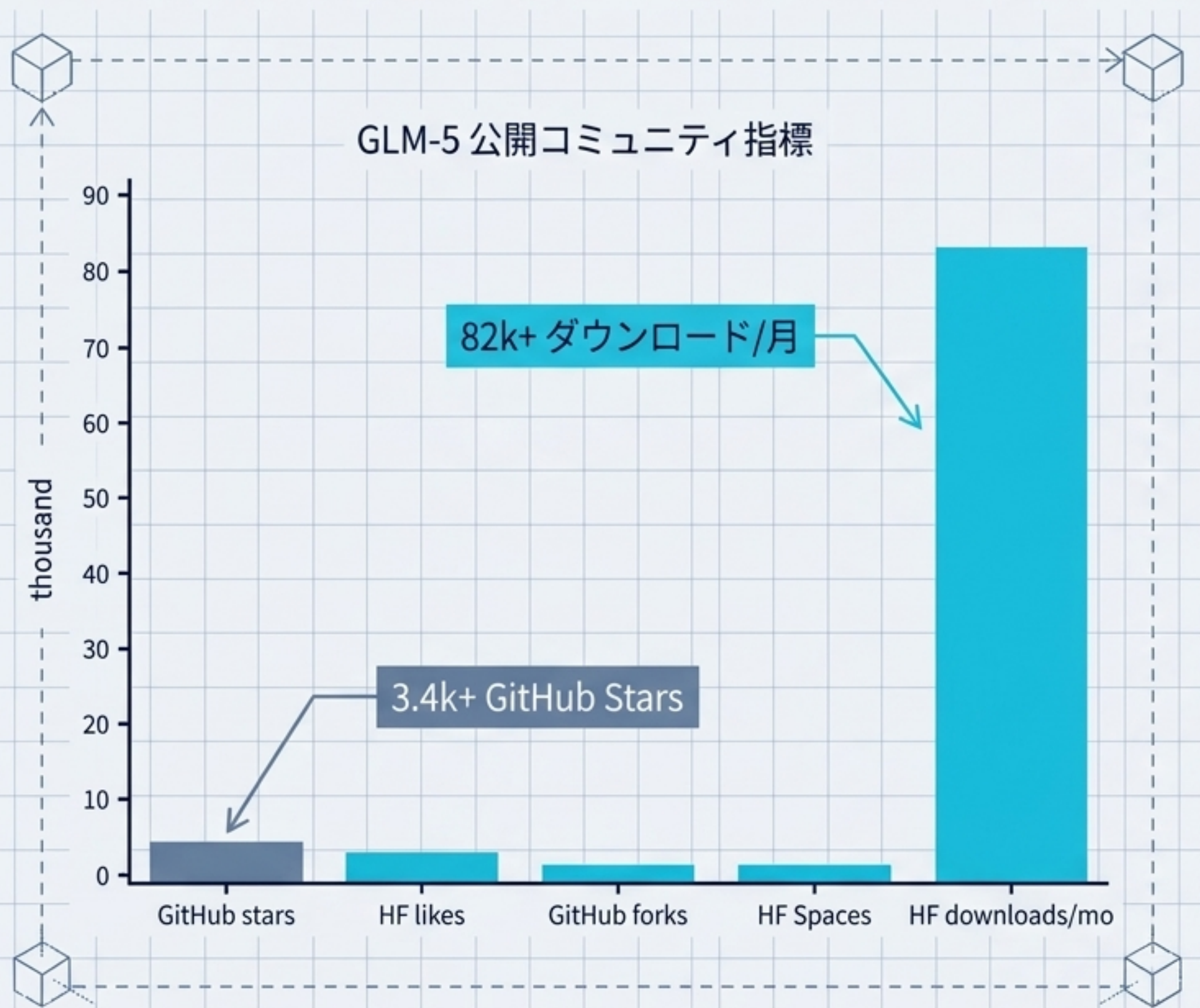
GLM-5.2固有の安全性レポート、幻覚 (Hallucination) の独立監査結果。

技術アーキテクチャ：強固なGLM-5基盤上の「長文脈プロダクト」



Key Takeaway: 1M文脈は突然現れた機能ではなく、5系の長文脈・長期タスク強化の延長線上にある。

コミュニティと生態系：ローカル配備を支える強固な基盤



需要の急増

Zhipuがコーディングプラン価格を30%引き上げるほどの需要急増 (Reuters)。2025年 API収益292%増。

オープンウェイトの覇権

Artificial Analysisにてopen-weights首位評価。LiveBench 68.85。

知財部門にとっての意義

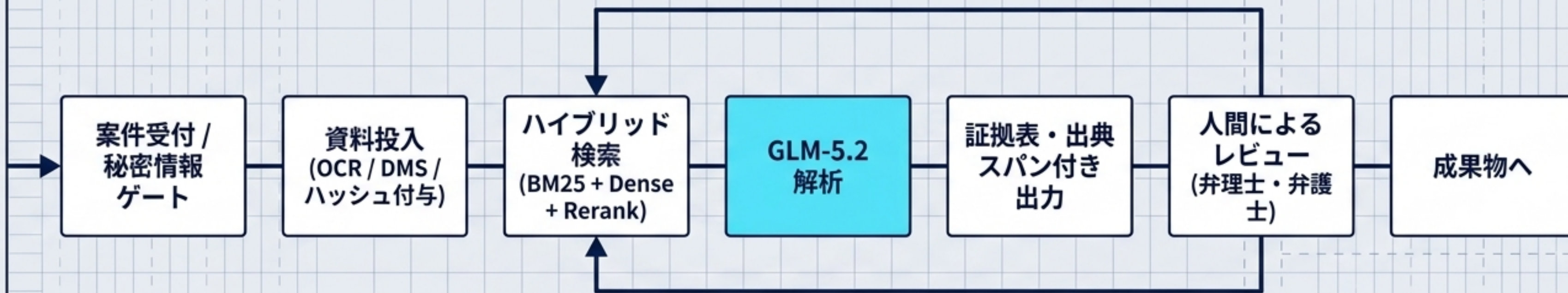
単なる「強いモデル」ではなく、ローカル運用・派生モデル・量子化ツールが育ちやすい生態系が存在。最高機密のIP案件をオンプレミス環境で構築するのに最適。

グローバルフロンティア比較：知財導入の観点から

| 評価次元 | GLM-5.2 | GLM-5.1 | Llama 3.1 405B | GPT-4o | Claude 3.5 Opus |
|-------------------|-----------------------------|-------------------------|----------------|-----------------|--------------------------|
| Context (文脈長) | 1M | 128K | 128K | 128K | 1M (beta) |
| Cost (コスト) | \$18/\$72/\$160 per month | Self-host / API (\$1.4) | Self-host | \$2.5/\$10 | \$5/\$25 (premium >256K) |
| Deployment (配備形態) | Self-hostable OSS (Pending) | Open Weights (Local) | Custom OSS | Closed API only | Closed API only |

結論：今日の機密業務には「GLM-5.1 ローカル」、明日の1M文脈投資には「GLM-5.2」、閉源でよければ「Claude/GPT」という使い分けが最適解。

知財ワークフローのアーキテクチャ：ハイブリッド検索と証拠スパン

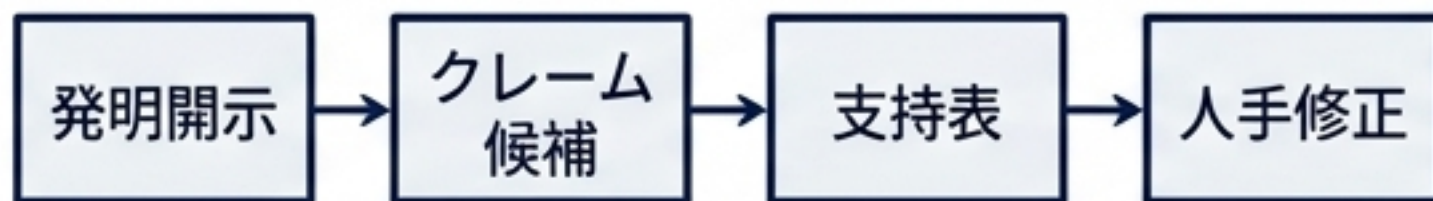


アーキテクチャの核：GLM-5.2の真価は、自由なテキスト生成ではなく「構造化JSON出力」と「出典スパン抽出」を高速回転させるパイプラインの中心（Orchestrator）にある。

ユースケース実装設計 I : 明細書作成と先行技術検索

特許ドラフティング (Creation)

ワークフロー



プロンプトの核

- 「根拠のない機能語は追加しない」
- 「各要件の支持箇所表をJSONで作成せよ」

ガードレール (Risk Guardrail):

- ⚠ 過広クレーム・支持欠如が最大リスク。全要件に証拠スパンを必須とし、新規語の追加を系統的に禁止する。

先行技術検索 (Discovery)

ワークフロー



推奨ツール

NPL検索, Family dedup, Reranker

ガードレール (Risk Guardrail):

- ⚠ 致命的なRecall不足を防ぐため、機械抽出結果を検索担当者が必ずTop-k再確認する運用フローを構築。

ユースケース実装設計 II：分析・FTO・デューディリジェンス

PANEL 1

クレーム分析

対象製品資料の投入 → 要件別
充足/未充足/不明の判定。

⚠ Guardrail:

「不明」を強制的に0にさせず、
正答の選択肢として残す。
引用のない判断は自動棄却。

PANEL 2

FTO一次分析

権利有効性/法的状態でのフィルタリング
→ 主要独立請求項チャート。

⚠ Guardrail:

法的状態の鮮度はLLMでは担保不可。
必ず外部法的状態DBからの「日付印
(Freshness timestamp)」を付与。

PANEL 3

IP デューディリジェンス / 契約レビュー

データルーム投入 → 譲渡/係争/OSS汚染の
赤旗抽出、プレイブック比較。

⚠ Guardrail:

OCR欠陥と資料欠落が支配的リスク。
ページハッシュを保存し、欠落時は
「要追加提出」のフラグを立てる。

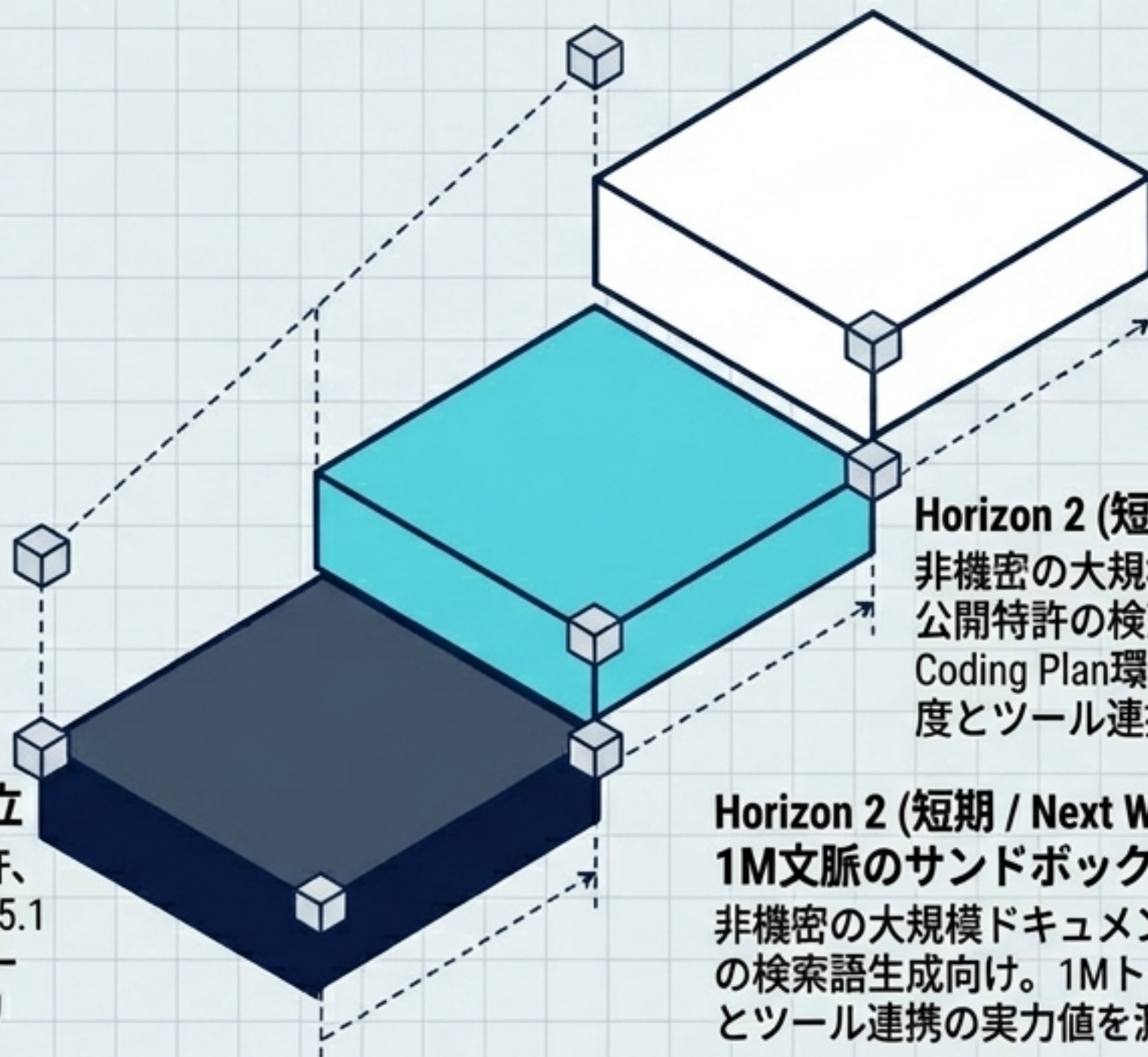
評価の「金標準」：公開ベンチマークから社内監査ゲートへ

一般コーディング課題のPass@1ではなく、証拠の取りこぼしの少なさが知財業務の価値を決める。
プロンプト評価の基準は「それっぽさ」ではなく、「根拠文書ID・引用スパン・確信度」が追試可能かどうかにある。

| タスク | データセット [Dataset] | 評価指標 [Metric] | 人間による承認ゲート [Human Gate] |
|-----------------|------------------------------|--|----------------------------|
| 特許ドラフティング | 過去発明開示50件 | 支持表カバー率、 新規語混入率 | ✓ 弁理士による 「補正可能か」の判定 |
| 先行技術検索 | 過去拒絶理由通知から のRelevance Set | Recall@k, Family dedup precision | ✓ 検索担当者の Top-k再査読 |
| FTO (侵害予防調査) | 存続特許の過去 クリアランス案件 | Active-claim recall, False-clearance rate | ✓ 国別Counselによる 妥当性確認 |

最終展開ロードマップ：リスク調整済み導入戦略

Horizon 1 (即時 / Today):
ローカル・セキュア基盤の確立
最高機密の知財案件（未公開特許、M&A DD）向け。検証済みのGLM-5.1 Open Weightsをオンプレミス/ローカル環境に配備し、データ流出リスクをゼロにする。



Horizon 3 (中期 / Post-Documentation):
全社ワークフロー統合
安全性カード、独立監査ベンチマーク、OSS重み（MIT）の完全公開を待つ。監査条件クリア後、自社DMS/APIと直結させた「証拠整理のオーケストレーション層」として本格稼働へ移行。

Horizon 2 (短期 / Next Week):
非機密の大規模ドキュメント整理、公開特許の検索語生成向け。Z.AI Coding Plan環境下で、1Mトークンの精度とツール連携の実力値を測定する。

Horizon 2 (短期 / Next Week):
1M文脈のサンドボックス検証
非機密の大規模ドキュメント整理、公開特許の検索語生成向け。1Mトートークンの精度とツール連携の実力値を測定する。